

正しい使い方（４）溶融亜鉛めっき製品

- ◎ 亜鉛は自分を犠牲にして鉄を守るので、亜鉛めっきは目付量が多い程防錆効果があることは、MiNi通信(S.50.6.5号)でお話ししました。ところが、鉄に全部をささげるわけではなく、ムダな犠牲部分もあります。
- ◎ 空気中には酸素、水分、炭酸ガスが含まれているので、亜鉛の表面にはこれらと反応した酸化亜鉛 ZnO 、水酸化亜鉛 $Zn(OH)_2$ 、炭酸亜鉛 $ZnCO_3$ などを生じて、白色または灰色のさびとなります。これらのさびは、元来緻密で密着性もよく、亜鉛のそれ以上の腐蝕を防ぐ作用があるのですが、残念ながら、水、特に酸やアルカリを含んだ水（雨は殆んど酸性です）にとけやすい欠点があります。それで、切角できた緻密な防錆膜も、水にぬれるとすぐ流され、次のさびを発生することになります。
- ◎ うすい白さびを生じた亜鉛めっき製品は、その状態のままなら理想的な防錆膜を作っているのですから、水分の少ない所（湿度75%以下、あるいは湿っても流れずにすぐ乾燥するような状態）に使用するなら、防錆力について何も心配する必要はありません。
- ◎ ところが亜鉛の防錆力を過信して、かなり乱暴な取扱いをしているのを見かけます。地上に枕木も入れず直接置いたり、シートもかけず野ざらしにしたり、コンクリートを通った水がたれていたり、鉄の犠牲になる分を、どんどん空気と水の犠牲にしています。すぐやめて下さい。
- ◎ どうしても水のかかる所は、亜鉛めっきの上に塗装をして下さい。昔からトタン屋根にはペンキを塗りました。
- ◎ ネグロスの技術も自然の法則を越すことはできません。よろしく御推察願います。　　　　　　　　　　　（営業　K.Su）